

西小は おおきな 家族
Family
～校長のたわいもない独り言～

平成 30 年 6 月 14 日 (木) No.15
発行人

小学校時代の恩師や大先輩方も応援してくれる。元気百倍の川崎先生。

◇校外学習・西地区巡り◇

3年生も6年生も、校外学習で西地区を巡る。神社だったり古墳だったり棚田だったり、西地区に昔から存在する旧跡を訪ねる。川崎も子どもたちと一緒に巡り、様々な形を見学し、また説明を聞く。これがまた楽しい。この地に生まれて50数年、まだまだ知らないことがたくさんある事に気づかされる。

あやめヶ丘は昔は六科丘(むじなおか)といい、川崎家の桑畑があり、養蚕に使う桑をよく取りに行ったものだ。平岡の諏訪神社は子どもたちの遊び場だし、上市の八幡神社は幼稚園時代の娘たちとのサイクリングコースだったなあ。

川崎家の真ん前を流れる側溝の“つけえば”では、野菜や道具を洗うことはもちろん、小さいころは船を作って遊んだだけでなく、夏は泳いだりもした。スイカやキュウリ、トマトを冷やしたこともあったなあ。当たり前のように使っていた場所だけど、他にはなかなか見られないと言われると、ちょっと誇らしい(<`^´>)

長田口遺跡の近くには畑があり、昔は普通に縄文式土器のかけらが落ちていた。だから土器だと意識したこともなく、珍しくないで集めたりもしなかった。今思うと、少しは保存しておけばよかったかな。

月日が流れると忘れ去られてしまうことがたくさんある。だからこそこの地に住んでいる者の使命として、学んでいくこと、語り継いでいくことが大切なのだと実感している。

◇4年生がインタビューに来てくれた◇

校長室のドアをノックして、4年生がインタビューに来てくれた。2～3人のグループごと、きちんと挨拶をしてインタビュー。どのグループも、その礼儀正しさやしっかりとした準備の様子に、4年生の誠意が感じられてとても清々しかった。緊張が手に取るようにわかったけど、そりゃ校長室ってドキドキだよな。川崎は小学校のころ校長室に入ったことあったっけ?まったく記憶にないなあ。

◇6年生が学校沿革史を見に来てくれた◇

今度は6年生が学校の沿革史を見せてくださいとやってきた。総合的な学習の時間の一環として、自分のテーマに基づいた学習をするための資料にしたいと言う。西小創立の昭和34年から昭和61年までの沿革史をていねいに見ていた。そこには校章制定時の形が手書きで書いてあったり、これまで勤務された先生方がすべて書かれていたり、その時々のお出来事が綴られていたり、なかなか貴重な資料だ。これを学ぶ姿勢に感心しかり。さすが6年生。一味ちがう。

◇天気と子どもの気持ちと◇

雨の日の朝は、「おはようございます」のあいさつがいつもより小さい。でも次の日に晴天だと、遠くからでもはっきりわかる大きな声であいさつが響いてくる。いや、わかりやすいね小学生。でもこの純粋で単純明快な姿こそが子どもの財産。良きかな良きかな。